

平成 21 年 5 月 22 日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2006 ～ 2008
 課題番号：18251007
 研究課題名（和文） チュルク諸語における固有と外来に関する総合的調査研究
 研究課題名（英文） “Native” and “Loan” in Turkic Languages
 研究代表者
 久保 智之（KUBO TOMOYUKI）
 九州大学・人文科学研究院・教授
 研究者番号：30124993

研究成果の概要：

ユーラシア大陸の広大な面積に亘って話されている、トルコ語をはじめとするチュルク諸語について、ロシア語、漢語など、さまざまな言語との接触による借用現象などを中心として、広く言語学的な記述を行なった。借用現象の普遍像については、本研究中には、本格的な研究にまでは至らなかったが、同じ地域で話されている複数の言語を対象として、借用現象の一般化を行なうことができた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	10,400,000	3,120,000	13,520,000
2007年度	11,600,000	3,480,000	15,080,000
2008年度	10,400,000	3,120,000	13,520,000
年度			
年度			
総計	32,400,000	9,720,000	42,120,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：チュルク諸語、借用、固有、外来

1. 研究開始当初の背景

グローバル化の中で、殆どの言語は常に他言語との接触に晒されている。その過程で、借用語・外来語といった語種が大量に生み出されている。言語研究では、従来は固有語（その言語が固有に持っていた語彙）の研究が中心で、借用語・外来語は二次的な扱いを受けていた。本研究は、その借用語・外来語と借用現象に目を向けた。

2. 研究の目的

- (1) ユーラシア大陸に広がっているチュルク諸語を対象として、大言語である英語、ロシア語、漢語（中国語）からの借用現象について、普遍的、一般的に見られる特徴とは何かを探る。
- (2) 個別言語において、借用語・外来語まで含めた、言語体系全体の記述を行なう。

3. 研究の方法

- (1) 各研究者を現地に派遣し、当該言語の借用現象についてフィールド調査を行なう。
- (2) 文献を対象として、当該言語の借用現象を研究する。
- (3) 海外の研究者と研究交流を行なう。

4. 研究成果

借用現象の普遍像については、本研究中には、本格的な研究にまでは至らなかったが、同じ地域で話されている複数の言語を対象として、借用現象の一般化を行なうことができた。また、個別言語について、借用現象を含め、種々の研究成果をあげることができた。以下に詳細を示す：

- (1) 満洲語（文語）と中国新疆ウイグル自治区で話されているシベ語を対象として、外国語地名の表記や、母音融合の表記を中心にした研究を進めた。その結果、従来非対称的な形式を持っているとされてきた動詞の完了形の否定形(-rakû)と完了形の否定形(-hakû, -hekû)について、実は全く対称的で、どちらも -akû 形であることを突き止めた。また満洲語において、上記現象以外にも、同じ音の連続が、固有語と借用語で異なる表記法をとることがあることを発見した。

シベ語及び現代ウイグル語を対象に、漢語からの借用語が、両言語で類似した形式で取り込まれていることを明らかにした。具体的には、漢語の声調をもった音節は、長母音をもった音節として実現している。

- (2) 清朝初期の満洲語資料である満洲語訳の『三國志演義』を資料にして、清朝初期の満洲語の文法・音韻を研究した。特に、全50万語ほどの全資料を満漢に分けて、固有満洲語と外来の漢語の音節構造の違いを明らかにした。

- (3) ウイグル語文献研究として、スウェーデン国立民族博物館所蔵の『阿毘達磨俱舍論』およびロシア科学アカデミー東洋文献研究所所蔵の『入阿毘達磨論注釈』のテキストを完成させた。

- (4) トルコ系移民の人々が多く住むベルリン・クロイツベルク地区において、トルコ語とドイツ語の二言語使用者が両言語の語彙

をどのように保持しているかを明らかにした。

- (5) 東シベリアのチュルク系言語、特にドルガン語とヤクート語について、会話帳の作成を母語話者等と行なった。

- (6) カシュカイ語の統語法の特徴を取りまとめ、チュルク語南西グループ全体の中での位置づけを行った

- (7) トルコ共和国において Tatarca, Karacayca, Nogayca と呼ばれる言語を調査した結果、これらの言語がキプチャクグループに属することが明らかになった。また、カザフ語においてアスペクトを表す4つの形式について、現地コンサルタントから得た言語データをもとに記述した結果、主体動作動詞、主体変化動詞の動詞の意味的特徴と、アスペクトを示す形式の組み合わせにより動作継続、結果継続などのアスペクト的意味が決まることを明らかにした。

- (8) 中期チュルク語による文献『チンギズ・ナーマ』の本文校閲を担当し出版した。15世紀ごろと推定されるウイグル文字による「頌詩」を取り上げ、テキストと註を執筆した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計20件)

1. Hayasi, Tooru. Is Eynu a mixed language, a borrowed lexicon, or something else? *Turcological letters to Bernt Brendemoen*. 121-132. 2009. 査読無し.
2. Kubo, Tomoyuki. Why the asymmetry in Manchu Negative forms? --- -rakû / *-rekû / *-rokû vs. -hakû / -hekû / *-hokû ---. *Proceedings of the 8th Seoul International Altaistic Conference*. 87-94. 2008. 査読有り.
3. Kubo, Tomoyuki. A sketch of Sibe phonology. 『言語の研究—ユーラシア諸言語からの視座—』127-142. 2008. 査読無し.
4. 早田 輝洋 「満洲語の音節構造—音節縮約を中心として—」『言語の研究—ユーラシア諸言語からの視座—』1-9. 2008. 査読無し.
5. 早田 輝洋 「間接目的語と直接目的語の語順」『言語の研究—ユーラシア諸言語からの

- 視座—』11-19. 2008. 査読無し.
6. Shogaito, Masahiro. Uigurskii fragment pod shifrom SI Kr. IV 260 iz sobranija IVR RAN. *Pis'mennye pamjatniki vostoka*. No. 8. 177-186. 2008. 査読有り.
7. 藤代 節「北東アジアのチュルク諸語研究—日本からそそぐ北東アジアへの眼差し—」『北東アジア研究』別冊第1号. 67-84. 2008. 査読有り.
8. Kuribayashi, Yuu. Turkish causative and semantic ambiguity. *Ambiguity of Morphological and Syntactic Analyses*. (T. Kurebito ed., Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa. Tokyo University of Foreign Studies). 15-26. 2008. 査読無し.
9. 林 徹「ベルリンのトルコ語」『言語』37 巻 4 号. 98-103. 2008. 査読無し.
10. Shogaito, Masahiro. Uighur Abhidharmakoabhyas-k Tattvth preserved in China. *Aspects of research into Central Asian Buddhism* (P. Zieme ed., Turnhout). 349-368. 2007. 査読無し.
11. Hayasi, Tooru. On the distribution of Eynu, a Modern Uyghur-based secret language spoken in South Xinjiang. *China. Einheit und Vielfalt in der turkischen Welt*. 182-192. 2007. 査読有り.
12. 林 徹「エイヌ語に見る言語接触の諸相」『言語』36 巻 9 号. 48-55. 2007. 査読無し.
13. 藤代 節「北東アジアの諸言語にかんする注釈つき年代別文献リスト」『環北太平洋の言語』14 巻. 167-246. 2007. 査読無し.
14. 早田 輝洋「満洲語の繫辞と存在動詞」『アルタイ語研究』1 巻. 11-59. 2006. 査読無し.
15. 早田 輝洋「上代日本語母音調和覚書」『筑紫国語学論叢Ⅱ—日本語史と方言—』1-16. 2006. 査読無し.
16. 林 徹「言語調査における単位」『言語』35 巻 10 号. 20-27. 2006. 査読無し.
17. Kuribayashi, Yuu. Syntactic borrowings of Azerbaijanian and Qashqay in Iran. *Advances in Turkish Linguistics*. 669-679. 2006. 査読有り.
18. 栗林 裕「トルコ語の複合動詞と文法化」『アジア・アフリカの言語と言語学』1 号. 25-44. 2006. 査読無し.
19. 藤家 洋昭「トルコ語とウイグル語における現在形と過去形の人称を示す形式」『言外と言内の交流分野』535-545. 2006. 査読無し.
20. 菅原 睦「『クタドゥグ・ピリグ』から『五体清文鑑』まで—中央アジア・チュルク語アラビア文字正書法の変遷—」『ユーラシア諸言語の研究』43-62. 2006. 査読無し.

〔学会発表〕(計 9 件)

1. 藤代 節. リレー講演『現代言語学の潮流と西田門下』「アルタイ諸語」京都大学ユーラシア文化研究センター特別講演会. 2008年11月22日. 京都大学文学研究科附属ユーラシア言語研究センター. 京都.
2. Sugahara, Mutsumi. Tazkira-yi Awliya in the Uyghur script. International Workshop, Studies on the Mazar Cultures of the Silk Road. 2008年8月27日. 新疆大学, ウルムチ, 中国.
3. Kubo, Tomoyuki. Native and loan in Modern Uyghur. The 14th International Conference on Turkish Linguistics. 2008年8月7日. Ankara University, Antalya, Turkey.
4. Hayasi, Tooru. Nativization in the Phonology of Chinese Loanwords into Modern Uyghur. The 14th International Conference on Turkish Linguistics. 2008年8月7日. Ankara University, Antalya, Turkey.
5. Ozbek, Aydin and Kuribayashi, Yuu. CovertCausee Structures in Turkish. The 14th International Conference on Turkish Linguistics. 2008年8月7日. Ankara University, Antalya, Turkey.
6. Kuribayashi, Yuu. Contact induced changes in southwestern Turkic ---Emergence of analytic strategy for modals---. The 14th International Conference on Turkish Linguistics. 2008年8月6日. Ankara University, Antalya, Turkey.
7. Kubo, Tomoyuki. Why the asymmetry in Manchu Negative forms? --- *-rakû / *-rekû / *-rokû vs. -hakû / -hekû / *-hokû* ---. The 8th Seoul International Altaistic Conference. 2008年7月18日. Chonbuk National University, Korea.
8. Fujishiro, Setsu. A topic in a linguistic analysis of Yakut epic olongxo. Turkic oral literature in Siberia. XXX. Deutscher Orientalistentag. Freiburg im Bresgau. 2007年9月24-28日. ドイツ.
9. 久保 智之. 「満洲語否定形におけるアシメトリーについて— *-ha, -ho, -he* の否定形が *-hakû, -hekû* で *-ra, -ro, -re* の否定形が *-rakû* なのはなぜか—」満族史研究会第22回大会. 2007年6月2日. 神戸国際会議場. 神戸.

〔図書〕(計 10 件)

1. 栗林 裕『チュルク語西南グループの構造と記述』(Contribution to the Studies of Eurasian Languages (CSEL) Series Vol.16). ix+256. 2009.
2. 藤家洋昭 (監修を担当)『ソヴィエト後の中央アジア：文化、歴史、言語の諸問題』(Juliboy Eltazarov著、小松格・吉村大樹訳)

vi+319. 2009.

3. 菅原 睦『ウイグル文字本「聖者伝」の研究 日本語訳および註』神戸市看護大学. 401. 2008.
4. 庄垣内 正弘『ウイグル文アビダルマ論書の文献学的研究』松香堂. 739. 2008
5. 久保 智之『シベ語語彙集』九州大学. 294. 2008.
6. 久保 智之(寺村政男・福盛貴弘との共編)『言語の研究—ユーラシア諸言語からの視座—』大東文化大学語学教育研究所. 434. 2008.
7. 藤代節(庄垣内正弘との共編) *Dynamics in Eurasian Languages* 『ユーラシア諸言語の動態』(Contribution to the Studies of Eurasian Languages (CSEL) Series Vol.14). x+245. 2008.
8. 菅原 睦、『チンギズ・ナーマ』(ウテムシユ・ハーギー著 川口琢司・長峰博之編)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. xi+100+46. 2008.
9. 直川ナヂェージダ、藤代 節『サハ語会話帳』九州大学言語学研究室. 200. 2007.
10. 直川ナヂェージダ、藤代 節『ロシア語ドルガン語会話帳—和訳・解説付き—』九州大学言語学研究室. 200. 2007.

[その他]

ホームページ等

<http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/~turk/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

久保 智之 (KUBO TOMOYUKI)

九州大学・大学院人文科学研究院・教授
研究者番号：30124993

(2) 研究分担者

早田輝洋 (HAYATA TERUHIRO)

東北学院大学・英語英文学研究所・客員研究員
研究者番号：80091239
(2006—2007 年度)

庄垣内 正弘 (SHOGAITO MASAHIRO)

京都産業大学・文化学部・客員教授
研究者番号：60025088

林 徹 (HAYASI TOORU)

東京大学・人文社会系研究科・教授
研究者番号：20173015

藤代 節 (FUJISHIRO SETSU)

神戸市看護大学・看護学部・准教授
研究者番号：30249940

栗林 裕 (KURIBAYASHI YUU)

岡山大学・文学部・准教授
研究者番号：30243447

藤家 洋昭 (FUZIIIE HIROAKI)

大阪大学・世界言語センター・准教授
研究者番号：90283837

菅原 睦 (SUGAHARA MUTSUMI)

東京外国語大学・総合国際学研究院・准教授
研究者番号：50272612